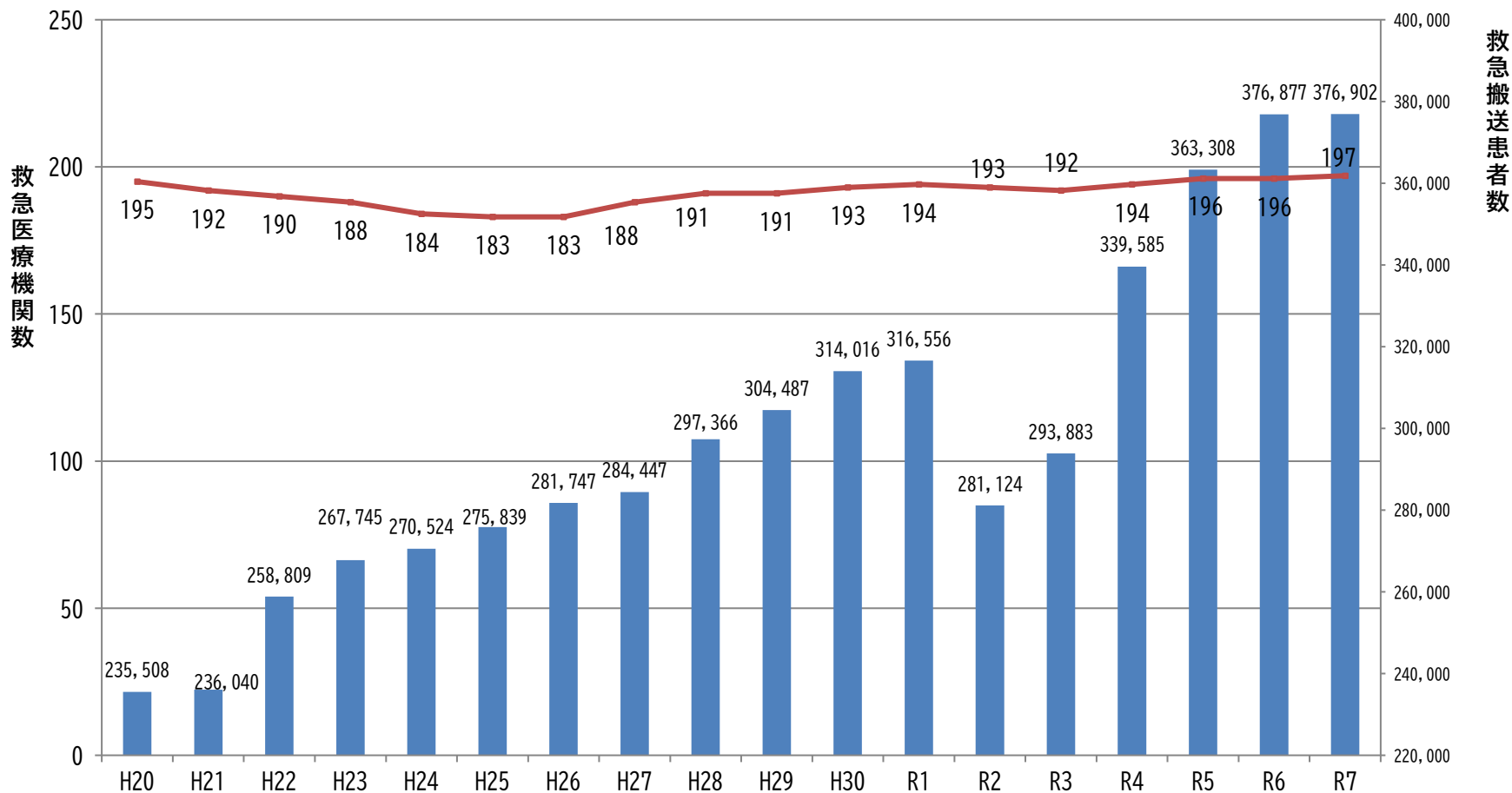


埼玉県の救急医療を取り巻く現状①

救急搬送患者が増加する一方、救急医療機関数が横ばいであり、1 救急医療機関当たりの負担が増加している。

(令和2年については新型コロナウイルスの影響等で救急搬送患者が大きく減少)



※R7は速報値
※転院搬送を含む

埼玉県の救急医療を取り巻く現状②

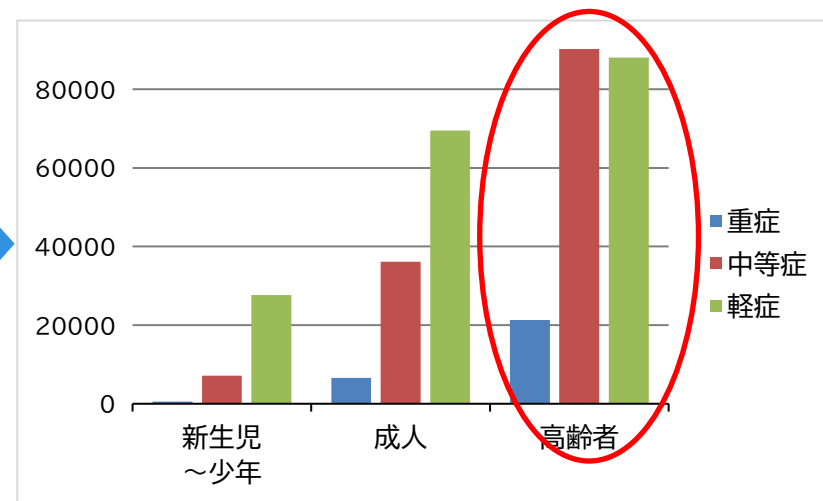
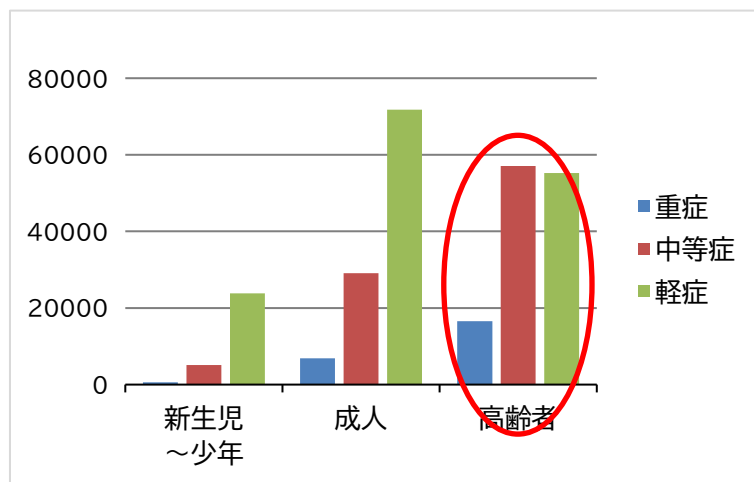
救急搬送人員数の伸びは、特に高齢者が多い（平成25年に比べて約60%増）

平成25年

	新生児 ～少年	成人	高齢者
重症	628	6,477	17,153
中等症	5,314	29,101	60,625
軽症	23,186	70,799	58,349
合計	29,128	106,377	136,127

令和7年（速報）

	新生児 ～少年	成人	高齢者
重症	581	6,738	23,190
中等症	7,449	38,464	118,900
軽症	25,913	67,627	84,380
合計	33,943	112,829	226,470



※新生児～少年…0～18歳未満
高齢者…65歳以上

※死亡・その他を除く 2

埼玉県の救急医療体制①

病院 340 診療所 4,671

うち、救急医療機関 病院 184 診療所 13

第三次救急医療体制 〔重篤〕な救急患者

- ・救命救急センター 11病院
- ・小児救命救急センター 2病院

第二次救急医療体制 〔手術〕又は〔入院〕が 必要な救急患者

救急告示医療機関（197）
＋その他（3）狭山厚生病院、蓮田外科病院、佐瀬病院
〔・病院群輪番制病院・・・134医療機関
・小児救急輪番病院等・・・25医療機関〕

搬送困難事案受入医療機関 13病院

75歳以上の搬送困難患者受入体制 94病院
※令和8年6月1日時点 99病院

初期救急医療体制 〔軽症〕の救急患者

在宅当番医制度 27郡市医師会

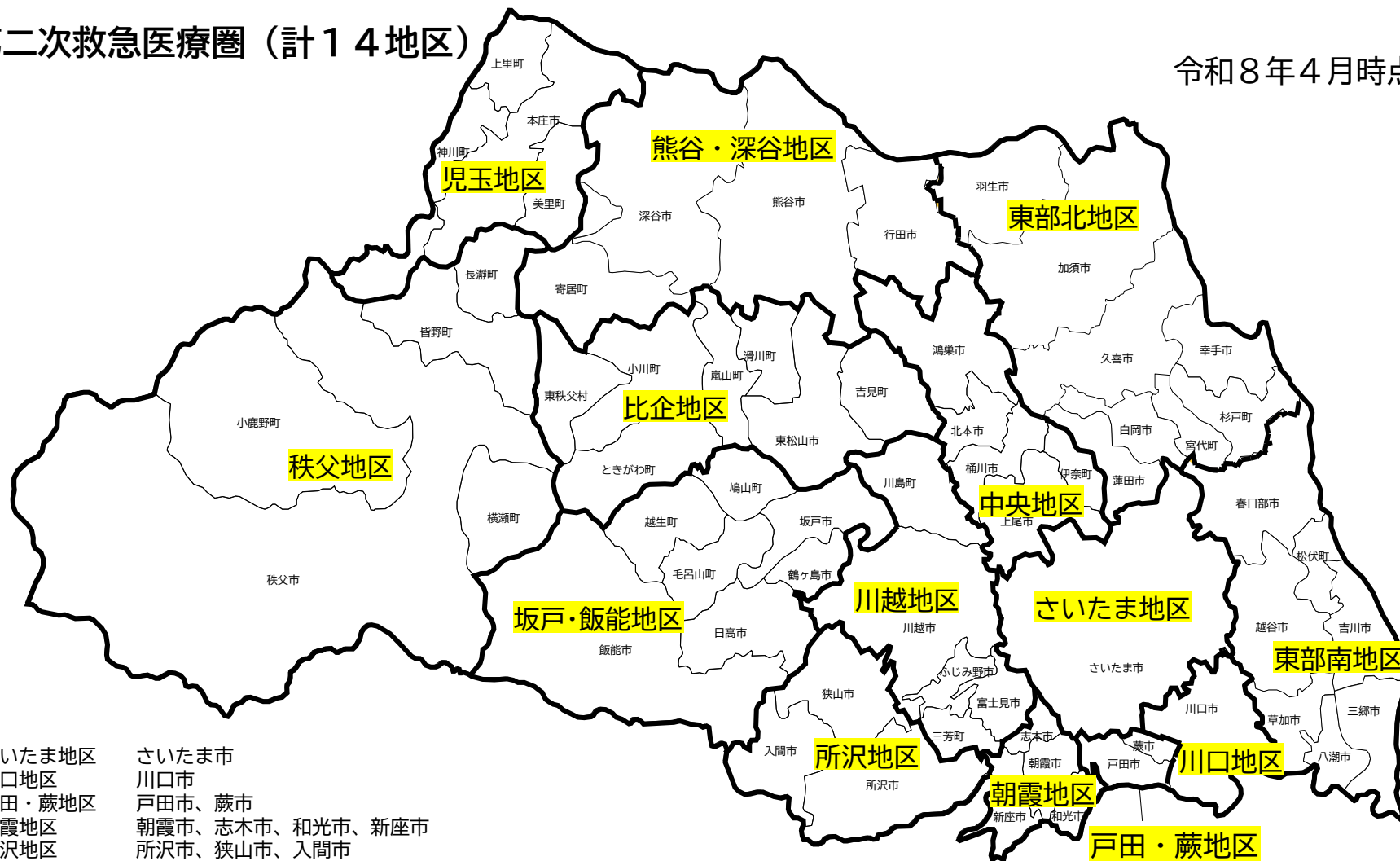
休日夜間急患センター 27か所

夜間小児初期救急受入体制 6医療機関

埼玉県の救急医療体制②

第二次救急医療圏（計14地区）

令和8年4月時点



さいたま地区
川口地区
戸田・蕨地区
朝霞地区
所沢地区
川越地区
中央地区
熊谷・深谷地区
児玉地区
比企地区

さいたま市
川口市
戸田市、蕨市
朝霞市、志木市、和光市、新座市
所沢市、狭山市、入間市
川越市、富士見市、ふじみ野市、三芳町、川島町
鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
熊谷市、行田市、深谷市、寄居町
本庄市、美里町、神川町、上里町
東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、吉見町、ときがわ町、東秩父村

坂戸・飯能地区
飯能市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、毛呂山町、越生町、鳩山町
秩父地区
秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町
東部北地区
加須市、久喜市、幸手市、蓮田市、羽生市、白岡市、宮代町、杉戸町
東部南地区
草加市、越谷市、三郷市、八潮市、吉川市、松伏町、春日部市

埼玉県の救急医療体制③

第三次救急医療体制

令和8年4月時点

